

## 4-2 原材料など輸入貨物の経済的輸送の確保

エネルギー資源や工業製品の原材料など一度に大量に遠距離輸送される貨物を、その荷姿からバルク貨物（バラ貨物）と呼びます。県内に輸入されるバルク貨物は、原木やチップ、石炭、飼料、化学工業品などがありますが、80%以上の貨物が県内の港湾を利用して輸入されます。

八代港では、積載量3万トン級の大型貨物船対応の岸壁・航路（水深12m）の整備が進んでいます。しかし、このようなバルク貨物を非常に遠方から運んでいる貨物船は、一度により多くの貨物を運ぶことによる輸送コストの削減を図るため、ますます大型化する傾向にあります。そこで本県では、八代港において、大型化に対応する岸壁・航路の整備を進め、地域の産業競争力向上に寄与します。

### 八代港に入港した大型貨物船

アメリカから飼料を運んで八代港に入港した大型貨物船です。この船は、一度に5万トン程度の貨物を運ぶことができますが、入航にあたっては、大型岸壁を有するその他の港湾で貨物の一部をおろし、喫水<sup>12</sup>調整を行い船体を浮かして入港しています。



12) 喫水：船舶の水面より水中に沈む船体の深さ。喫水は積んでいる貨物量の増減によって変化します。

## 4-3 国内海上輸送ネットワークの形成

輸送貨物の多種多様化が進む中、県内での物流はトラック輸送が主流となっています。しかし、貨物船による海上輸送は、トラック輸送に比べエネルギー効率が良く、CO<sub>2</sub>排出量が少ないなど地球環境にやさしい輸送手段です。特に砂・砂利やセメント、石油類のように取扱量が多くかさばる貨物は海上輸送に適しています。

砂・砂利については近年中国や韓国からの輸入量が増加しており、国内・県内の環境問題などによる制約もあって、今後さらに輸入量は増加するものと思われます。また、セメントや石油精製品についても海外製造品の輸入量増加が予想されています。このため、現在の輸送形態と比べ有利な大型船舶による大量輸送化を進めていく必要があります。

このような状況の下、砂・砂利、セメントや石油類といった海上輸送に適した貨物を今後もさらに効率的に取り扱うため、いくつかの輸入拠点や県内の分配拠点として、八代港・三角港を始め、熊本港・水俣港、天草地域の拠点となる鬼池港などの施設整備を進め、国内海上輸送ネットワークの形成を図ります。